



断熱材

フェノールフォーム断熱材  
フェノバボード®

フェノバボードの特徴

1 高い断熱性能

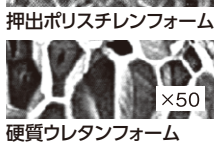
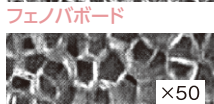
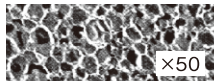
フェノバボードの最大の特徴は業界最高クラスの断熱性能

熱伝導率はなんと **0.019W/(m・K)**※  
薄くても十分な断熱性能を持っているため、厚みの制限がある部位でも余裕を持った収まりができ、外張断熱で使用する場合、短いビスで施工ができることから施工性に優れ、ビスのコスト低減にもなります。

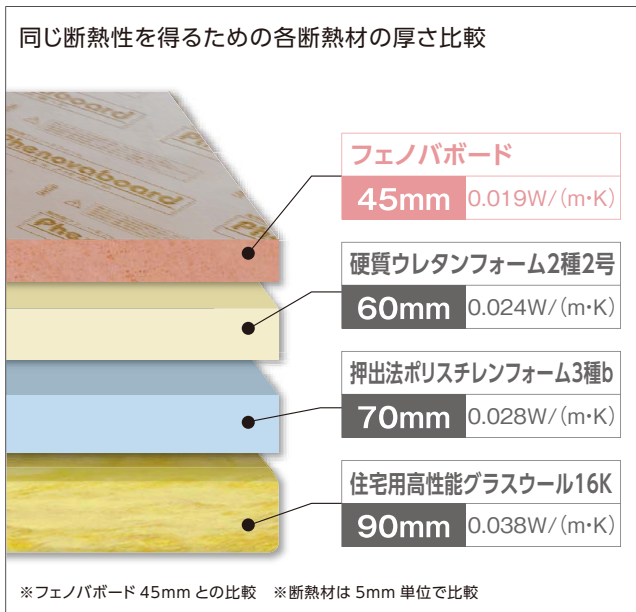
また、この高い断熱性能は同じ厚みの他の断熱材と比較して、押出法ポリスチレンフォーム3種bでは約1.47倍、住宅用高性能グラスウール16Kでは約2倍の断熱性能を発揮します。  
(※フェノパウチコミD30、ウチコミフェンDF30は0.020W/(m・K))

断熱性能を高める気泡構造

「フェノバボード」は発泡させた樹脂の中に微細な独立気泡（セル）を作り上げ、その中に断熱性能の高いガスを閉じ込めることで、極めて高い性能を発揮します。



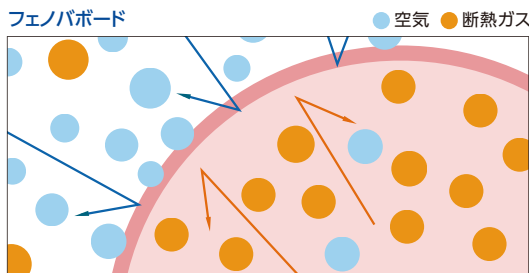
同じ断熱性を得るための各断熱材の厚さ比較



2 長期性能の維持

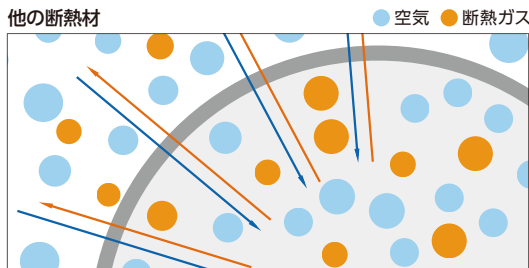
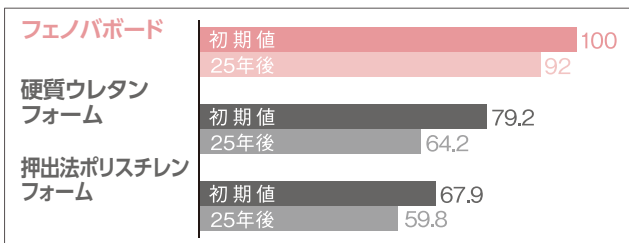
他の断熱材に比べて、断熱性能の経年変化が極めて少ない

発泡プラスチック系の断熱材は経年で性能が変化します。これは断熱材のガスが空気と入れ替わってしまうことから。「フェノバボード」は、気泡内の断熱ガスが抜けにくいので、他の発泡プラスチック系断熱材に比べて経年変化が少なく済みます。



ガスバリア性が高い気泡膜は断熱ガスが抜けにくく、断熱性能が低下しにくい。

フェノバボードの熱抵抗値を100とした場合の比較



ガスバリア性が低い気泡膜は空気を通しやすく断熱ガスが抜けやすいため、断熱性能が低下します。

※出典元：一般財団法人建築環境・省エネルギー機構「住宅の省エネルギー基準の解説 第三版」記載断熱材の正規化熱抵抗値より



施工説明書